

## 数学系

教員数	教員等数 (人)	教授 15 (15)	助教授 14 (14)	講師 10 (10)	助手 13 (14)	技官〔準研〕 1 (1)	
	異動状況 (人)	退職・転出 6 (5)	昇任 1 (1)	採用 3 (1)	学内 0 (0)		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			
		国内	国外	国内	国外		
		41 (33)	53 (54)	79 (91)	27 (30)		
	受賞数	0 (0件)					
	研究費等		採択件数	採択率(%)	金額(千円)		
		科学研究費	29 (26)	70 (57)	65,730(60,140)		
		学内プロ	14 (14)	46 (41)	7,600(7,600)		
奨学寄附金件数・金額		0件		0千円	(0件)	0千円)	
受託研究件数・金額		0件		0千円	(0件)	0千円)	
	受託研究員	0人 (0人)					
施設・設備							

・( )は前年度の数値を示す。

### 1 数学系の活動

原則として、毎月第2木曜日に、助手、講師、助教授、教授の教官及び準研究員、技官、事務官の全構成員による学系会議を開催し、数学系としての全般的な活動について審議、検討を行っている。さらに、学系会議では、毎月の評議会、研究審議会、教育審議会についての詳しい報告並びに自然科学類運営委員会の活動報告を行い、大学内における数学系としての活動の指針にしている。特に重要な議題については、構成員全体の意見、考えが反映されるように、できるだけ情報公開を行って、議論をしている。そのため、学系運営委員会、図書委員会、カリキュラム委員会、計算機委員会等の小委員会を通じて、常に、数学系としての活動について、将来を見据えた検討を行っている。また、個々の構成員の活動については、学系長が中心となって、種々の相談に随時応じると共に、きめ細やかな個人面談、掲示物、電子メール等を通じて、学系内の教職員が、お互いに自由に意見交換ができるような環境作りに努めている。

地域サービスの一環としては、毎年、全国の高校生を対象とした2日間の体験学習、近隣の市町村の生涯学習センターへの講師派遣等を行っている。昨年度は、数学系のホームページを全面的に改定して、より情報開示を進め、社会に開かれた学系を目指すように努力している。

### 2 自己評価と課題

本学系の教官の専門分野は、大きく分けて、代数学、幾何学、解析学、情報数学の4分野から成る。各分野とも、社会的ニーズに応じて、数学の様々な分野への応用を視野に入れた幅広い研究・教育活動を行い、国内的にも、国際的にも高く評価されている。具体的には、日本数学会の国立10大学の主要メンバーとして活動し、また、文部科学省の科学研究費補助金の採択件数、交付合計金額とも高い位置にある。さらに、助手、講師、助教授、教授の層を問わず、国際的な研究集会に招聘される教官が多く、学問的な国際交流が活発に行われている。今年度は、ガボン、韓国、中国から外国人研究者を受け入れ、パリ第6大学(フランス)、バルイラン大学(イスラエル)、北京師範大学(中国)との大学間交流の協定を継続している。

人事面で、学系内の活性化を図るために、転出、昇任等による欠員の補充に際しては、毎回、公募を行っている。しかしながら、外部評価の際にも指摘されたように、分野によっては、講師層、助教授層がやや高齢化し、今後の大きな課題である。

### 3 その他特記事項

各構成員による自己点検、自己評価を情報公開するために、今年度も、数学系全体の教育・研究活動に関する年次報告書を作成する。